

### ビックリ箱の ようなお店

開店時間は午前十時から午後六時としていますが、何やらかにやらして「もうこんな時間？」ということもままあります。日中お勤めをしている人は時間ギリギリに、「まだ良いですか？」と言っ

物だったブラウスとスカートの帽子でした。「みんな別々の所に陳列していたのに、こんなことってあるんだ」と、深く感心させられるとともに、こんないい人に買われていく元私の物たちは、「なんて幸せなのだろう」とも思いました。

私にこのお店の楽しさを認識させてくれた五十代二人組も、そんな時間ギリギリ組でした。いろんな意味において、「ビックリ箱のようなお店」を指しているの、売り物である家具の中や引き出しに、いろんな小物を入れて陳列しています。そのお二人にも、「引き出しの中にもいるんな物が入っているのを見てくださいね」と、声をかけました。

「Ｔちゃん見てみて、引き出しの中にかわいい、はし置きあるよよ」「Ｋちゃんこそ見てよ、かわいいスカーフいっぱいあるよよ」と、お互いを呼びながら買い物かごに品物を入れていきます。その様子が本当に楽しく、時間通りにクローズしなくて良かったと、心から思いました。

最後の会計の段になって、「Ｔちゃん」が私を驚かせました。「Ｔちゃん」のかごの中に入っていたのは、元私の

# 花風屋繁盛記

## 連載31

### 人と人がつながって

NPO法人在宅生活支援  
サービスホーム花風

木村美和子理事長



仕事休んでるの？」 すっかり「花風屋」になんていうSケアマを、「花風」のスタッフと思っていたようでした。

### バリアありの 店なんです

「今日は、誘惑に負けませんでした！ ハハハ」 この破顔一笑が、とてもチャーミング。 そうなのです、少々「バリアあり」の方がみんな気をつけたり、工夫したりする。大事なのは、介護する人間が目を離さずに危険を察知する感覚を磨いておくこと。



「みんなは若いぞ、オー」と花風合唱団。連載終了だが、花風はずっと「みんなは若いぞ、オー」で

てから（毎日献立が変わります）食事に来てくれます。三十代の男性は「亡くなった大好きなお婆あちゃんと一緒にいるよ」うだ」と言

ネは、ボランティアを兼ねて三時の

ある時、Yさんが言いました。「あの人がどうしたの？」

ここまで頑張ろう。そして、コーヒー飲んでひと休止」と歩くのですね。A事業

みんながみんな、「花風屋」を自分の都合のよいように活用して

「このテーブル斜めになってるよ」「いいえ、いいえ。斜め

この三年の間、奇声を発したり、徘徊する認知症高齢者を怖がりながら来店していた小学生も、怖がるどころか「おじいちゃん、どこいくの？」などと話し掛けてくれるようになりました。おなじみさんは、下宿人やミニデイ利用者の姿が見えないと、「今日はどうしたの？」と寂しがりです。

（おわり）